

I 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直している。
先行きについては改善の動きがみられる。

〔景況感DI〕

- ・前期比で2.0ポイント増加し▲38.0となり、2期連続で改善した。
- ・業種別では、製造業、非製造業ともに2期連続で改善した。

〔景況感の先行きDI〕

- ・前期比で7.5ポイント減少し▲17.7となった。2期ぶりに悪化した。

〔売上げDI、資金繰りDI及び採算DI〕

- ・売上げDI及び資金繰りDIは2期ぶりに改善し、採算DIは3期連続で改善した。

〔設備投資の実施率〕

- ・23.9%と、2期連続で増加した。

〔来期の見通し〕

- ・売上げDI及び資金繰りDIは当期DIより悪化し、採算DIは当期DIより改善する見通しである。
- ・設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、DIを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和6年7～9月期、「当期」：令和6年10～12月期、「来期(先行き)」：令和7年1～3月期

1 経営者の景況感と来期の見通しについて

(1) 景況感

自社業界の景況感DIは▲38.0（前期比+2.0）となり、2期連続で改善した。
業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続で改善した。

〔景況感DIの推移〕

	当 期 (R6.10-12)	前 期 (R6.7-9)	前年同期 (R5.10-12)
全 体	▲38.0	▲40.0	▲41.9
製 造 業	▲43.9	▲46.3	▲44.6
非製造業	▲33.5	▲35.5	▲40.0

(2) 来期の見通し

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は7.2%（前期比▲2.0）、
「悪い方向に向かう」とみる企業は24.9%（前期比+5.5）だった。
先行きDIは▲17.7（前期比▲7.5）と、2期ぶりに悪化した。

〔来期の見通し〕

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きDI (R7.1-3)
全 体	7.2%	24.9%	▲17.7
製 造 業	7.4%	24.0%	▲16.6
非製造業	7.1%	25.6%	▲18.5

2 売上げについて

売上げD Iは▲8.1（前期比+11.5）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。
業種別にみると、製造業は3期連続改善し、非製造業は2期ぶりに改善した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより悪化する見通しである。

〔売上げD Iの推移〕

	当 期 (R6.10-12)	前 期 (R6.7-9)	前年同期 (R5.10-12)	来期見通し (R7.1-3)
全 体	▲8.1	▲19.6	▲7.6	▲20.3
製 造 業	▲5.7	▲22.1	▲8.4	▲16.1
非製造業	▲10.0	▲17.8	▲7.0	▲23.4

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲17.2（前期比+2.7）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。
業種別にみると、製造業は2期ぶりに改善し、非製造業は横ばいだった。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより悪化する見通しである。

〔資金繰りD Iの推移〕

	当 期 (R6.10-12)	前 期 (R6.7-9)	前年同期 (R5.10-12)	来期見通し (R7.1-3)
全 体	▲17.2	▲19.9	▲16.8	▲21.7
製 造 業	▲17.6	▲24.1	▲18.0	▲21.2
非製造業	▲16.9	▲16.9	▲15.9	▲22.0

4 採算について

採算D Iは▲23.3（前期比+2.2）となり、3期連続改善した。来期は改善する見通し。
業種別にみると、製造業は3期連続改善し、非製造業は3期ぶりに悪化した。
来期については、製造業は当期の採算D Iより改善し、非製造業は横ばいに推移する見通しである。

〔採算D Iの推移〕

	当 期 (R6.10-12)	前 期 (R6.7-9)	前年同期 (R5.10-12)	来期見通し (R7.1-3)
全 体	▲23.3	▲25.5	▲22.7	▲23.0
製 造 業	▲22.3	▲27.9	▲20.6	▲21.6
非製造業	▲24.1	▲23.8	▲24.2	▲24.1

5 設備投資について

実施率は23.9%（前期比+0.5%）となり、2期連続増加した。来期は減少する見通し。
業種別にみると、製造業は2期ぶりに減少し、非製造業は2期連続増加した。
来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

〔設備投資の実施率〕

	当 期 (R6.10-12)	前 期 (R6.7-9)	前年同期 (R5.10-12)	来期見通し (R7.1-3)
全 体	23.9%	23.4%	19.3%	20.8%
製 造 業	26.4%	27.3%	22.9%	25.2%
非製造業	22.0%	20.7%	16.6%	17.5%

6 ヒアリング調査の概況 ※詳細はP19を御覧ください。

(1) 売上げ・採算について

業種	コメント
輸送用機械器具	価格転嫁が進んだのに加え、販管費を削減したことで、採算は良くなっている。
電気機械器具	車載部品の受注が落ち込む一方、タブレット等の電子部品の受注が堅調で、売上高は前年同期比で増えた。
鉄鉄鋳物	受注低迷が続く中で人件費が上昇しており、採算は悪くなっている。
印刷業	受注単価は上がっているものの受注量が減っており、売上高は減っている。
スーパー	客数、客単価ともに前年同期比で伸びており、増収基調を維持している。
情報サービス業	コスト上昇の中で価格転嫁は進んでおり、採算性は一定水準を維持している。
建設業	技術者の人手が足りず、現状よりも受注を増やすことができない。

(2) 現在の景況感について

業種	コメント
一般機械器具	受注は堅調だが、コスト上昇に対し価格転嫁が追い付かず、好況とは言えない。
輸送用機会器具	新規の引き合いが増えており、今後良い方向に向かうとみている。
金属製品	半導体製造装置や空調機器等の受注が増えており、好況である。
プラスチック製品	住宅資材の需要が減少する懸念があり、先行きは不透明である。
食料品製造	自社のオリジナル商品の製造・販売が堅調であり、好況である。
百貨店	秋冬物の衣料品の売れ行きが振るわず、不況である。
スーパー	物価高が続く中、中小スーパーは厳しい状況にある。

(3) 今後の見通しについて

業種	コメント
一般機械器具	中国経済の低迷により大手企業も業績予想を下方修正しており、不透明感が強い。
印刷業	来年2月頃までエンタメ系の受注が好調とみている。
工業塗装	大手自動車メーカーの業績悪化の影響を受ける懸念がある。
その他の小売業	売上げが増える見込みはなく、引き続き厳しい状況が続くとみている。
宿泊業	コスト上昇が続く中で利益率を上げていくには、稼働率を改善させる必要がある。
旅行業	小規模事業者を中心に倒産や廃業が増えるとみている。
運輸業	採算性の向上と合わせ、ドライバーの労働時間の短縮にも取り組んでいく。